

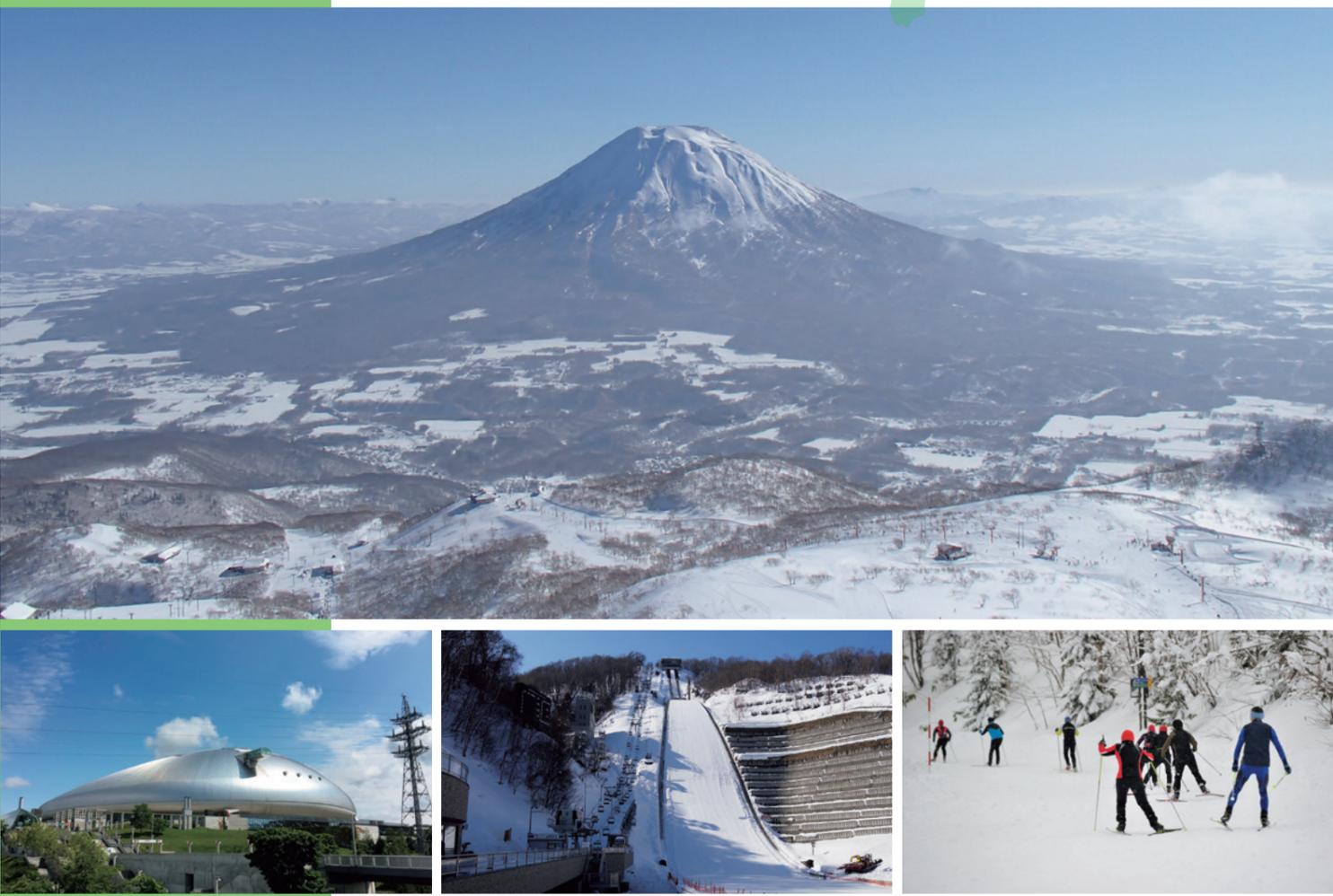
3月10日金

時間	メイン会場 (コンチェルト)	第二会場 (メヌエット)
9:30 ~ 11:00	[1-1] 「スポーツ施設の取り組み」  吉田 圭吾 氏 (株式会社札幌ドーム 事業本部長) 関西学院大学卒業。サッポロビール株式会社市場開発部長、同社札幌支社副支社長を経て、2004年株式会社札幌ドームに入社。施設部長、営業部長などを歴任後、2015年11月より現職。北海道最大の収容人数を誇る「札幌ドーム」の事業統括責任者として、札幌ドームの設置目的であるスポーツの普及振興、市民文化の向上、地域経済の活性化の推進役を担う。さっぽろグローバルスポーツコミッション戦略委員会委員。	[1-2] 「スポーツコミッション先進事例紹介」  武田 均 氏 (スポーツコミッションせんだい事務局長) 昭和28年生まれ。昭和51年東北学院大学法学部卒業後(旧)宮城町役場入庁。昭和62年仙台市との合併に伴い、仙台市職員。平成7年教育局スポーツ課、平成11年教育局国体事業課長、平成14年教育局スポーツ課長、平成15年市民局スポーツ交流課長、平成19年総務局東京事務所長、平成22年市民局長兼文化スポーツ部長、平成26年4月(公財)仙台市スポーツ振興事業団常務理事兼事務局長。
	 川島 行雄 氏 (一般財団法人さっぽろ健康スポーツ財団 理事) 札幌市出身。1984年、現財団の前身である札幌市スポーツ振興事業団に入社。施設課、経営企画室、事業課等を経て2015年4月から現職。その間、1989年第2回冬季アジア札幌大会、1991年第15回ユニバーシアード冬季札幌大会、2007年FISノルディックスキー世界選手権札幌大会組織委員会のスタッフとして従事する他、財団が主催する札幌国際スキーマラソン大会の事務局を長年担当するなど、国際大会やスポーツイベントの運営に関わる。また、日本障がい者スポーツ協会中級指導員として、障がい者スポーツの普及振興に取り組んでいる。	 小倉 和俊 氏 (NPO 法人 鏡子スポーツコミュニティ 理事長) 1965年鏡子市生まれ。高校時代には、ラグビー部で団体出場ベスト8。日本大学商学部卒。和光設備株式会社、2007年より代表取締役。2000年鏡子市青年会議所理事長、2001年~2016年鏡子ラグビースクールコーチ。現職として、鏡子工芸協同組合理事長、鏡子商工会議所議員、鏡子市法人会理事、NPO 法人 鏡子スポーツコミュニティ 理事長、鏡子スポーツタウン代表取締役。アイアンマンジャパン北海道 2013年~2015年 完走
	 コーディネーター：中山 哲郎 氏 (JSTA 事務局長) 1956年大阪市生まれ。1979年株式会社日本交通公社(西小牧支店配属)。その後大阪・ジュネーブ・東京・シンガポール勤務の中で、夏季冬季オリンピック・パラリンピック・アジア大会・ワールドカップなど国際スポーツイベントの業務に携わり、1994年~日本オリンピック委員会、2016年~東京オリパラ招致委員会にも出向。2012年 JSTA 設立時から事務局長職に就き、北海道「スポーツ観光人材育成事業」、北海道スポーツ総合振興局「スポーツ活用ブランド推進事業」、札幌市「地域スポーツコミッション調査業務」のアドバイザーなどを歴任。	 コーディネーター：山下 真輝 氏 (JSTA セミナー委員/JTB) 1993年株式会社 JTB 入社。2007年2月に九州本社地域活性化事業推進室、翌年2月同室室長、その後旅行マーケティング戦略部地域交流ビジネス推進室観光立国推進担当マネージャーとして観光庁他省庁関係チームとして活動。2012年4月現名に組織を改名。観光庁における観光立国に関わる各種委員会に参画し、目下全国自治体と連携し、観光による地域活性化事業のサポート、訪日インバウンド事業戦略策定、新成長戦略策定、東北復興支援事業、農林水産業における6次産業化支援事業などに携わっている。内閣官房地域活性化伝導部、JSTA 元観光地域づくり委員長、福岡地域戦略推進協議会観光副部長、横浜市都市臨海部再生マスタープラン審議委員等や地方自治体の各種委員を歴任。
[2-1] 「スポーツツーリズム最新レポート報告」  及川 明宣 氏 (スポーツ庁参事官(地域振興担当)付専門職) 1976年東京都生まれ。1999年に株式会社日本交通事業社(現:株式会社 JTB コミュニケーションデザイン)に入社。全国各地の観光振興プロモーションや、JTB グループの旅行商品宣伝・ブランディング等の分野において営業・プランナー業務を担当。2015年10月のスポーツ庁発足と共に現職。スポーツによる地域活性化に向けた、地域スポーツコミッションの活動支援やスポーツツーリズム推進等を担当。	[2-2] 「スポーツツーリズムによるインバウンド誘致戦略」  鈴木 稔 氏 (オーシャンズジャパン株式会社 日本事業本部長) 1996年日本サッカー協会2級審判員としてのみはや国体に審判員として参加するほか、仕事の傍ら大阪サッカー協会のサッカー大会運営に関わる。2010年から中国北京に本社を置くオーシャンズ・マーケティング社に入社。在職期間には杭州绿城サッカークラブ(中国1部リーグ)に出向し、日本人監督の通訳を2年間務める。2014年北京本社へ復帰してからは、国際事業部長として主に海外企業のスポンサーシップや、スポーツツーリズム事業を手掛ける。	
11:15 ~ 12:45	 内田 克哉 氏 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 政策研究事業本部観光政策室主任研究員) 中部地方を中心に各地自治体の観光振興に関連する事業に携わるとともに、地域の自立に向けた地域人材を活用した観光まちづくりに関する業務実績を多く有する。ユニバーサルツーリズムの分野での実績も多く、訪日外国人旅行者、障がい者、ムスリム旅行者等に特化した受入環境整備事業にも携わる。同社観光政策室自主調査において、スポーツツーリズム推進に係る各種調査を実施。	 高橋 幸博 氏 (株式会社アーチ・ヒーロー北海道 代表取締役) スキー、サイクリングツアーガイドコンシェルジュ。北海道の地域資源を活用したサイクリング観光客の誘致促進事業(北海道運輸局)、「サイクル・ツーリズムそらち推進連絡会」等においてアドバイザー。台湾をはじめ国内外に向けたプロモーションや、各種サイクリングイベントの企画・運営指導、受入環境整備などの自治体向けコンサルティングにも尽力。毎年台湾からサイクリング団体を招き、後志、空知、十勝、青森一函館を結ぶサイクリングツアーを企画するなど、その活躍の場を道外にも広げている。
	 コーディネーター：高橋 義雄 氏 (JSTA 理事/筑波大学) 1968年東京都生まれ。東京大学卒業。同大学院博士課程単位取得退学。日本サッカー協会2002年ワールドカップ招致委員会非常勤職員。名古屋大学専任講師を経て筑波大学体育系准教授に着任。英国エジンバラ大学教育学部で英国のスポーツ経営について研究。専門はスポーツ社会学、スポーツマネジメント。(公財)日本卓球協会評議員、(一社)アリーナススポーツ協議会理事、(一社)日本トナリリーグ連携機構事業推進委員会アドバイザー。	 太田 康裕 氏 (ザ・ノースカントリーゴルフクラブ(ノース・スノーランドイン千歳)) セガサミーゴルフエンタテインメント(株)ザ・ノースカントリーゴルフクラブ代表取締役社長総支配人。パルコ札幌店勤務後同グループ企業であった桂ゴルフ倶楽部入社(現PGM)。2004年に、セガサミーの新規事業としてゴルフ場の再開発に参入する際当社入社。ゴルフ場のリブランドに注力する一方で、ゴルフトーナメント事務局・海外ゴルフ場の提携推進を行い、北海道のゴルフ場として初めて冬期新規事業を開発し営業開始した。併せて北海道ゴルフ場支配人会常任幹事としてゴルフ活性化委員、千歳の観光考える会の代表として観光推進。そして北海道ゴルフ観光協会副会長としてゴルフツーリズムの推進に従事している。
	 コーディネーター：吉永 憲 氏 (JSTA 監事/共同ピアール) 1954年生まれ。77年成蹊大学法学部政治学科卒業。エレクトロニクス関係専門紙記者を経て、82年共同通信社入社。経済通信局特別情報編集(電子、電機担当)、米国ジフ・デバイス社提携事業「日刊コンピューター・インダストリー・デیلیー」極東地区チーフライター、共同通信 PR ウィヤー部長、情報企画本部長を経て、現在同本部総務。総務省地域再生マネージャー、唐津市観光協会アドバイザー、国土交通省観光庁スポーツツーリズム推進連絡協議会施設魅力化・まちづくりワーキングチーム座長、日本スポーツツーリズム推進機構(JSTA)監事などの活動を通して、地域再生や観光事業と関わっている。	
会場 (ラベンダー：4F) スポーツツーリズム全国連絡協議会		
13:30 ~ 15:00	講演「全国のスポーツツーリズム事例紹介」  今野 一彦 氏 (株式会社スポーツビジネス研究所 代表取締役・主席研究員) 北海道生まれ。北海道内の老舗建設会社で施工管理技師として様々な分野の建設事業に従事し、その後札幌市内の設計コンサルタントへ移籍。ランドスケープ事業を経て、企画マネジメント業へ転身。2008年、株式会社スポーツビジネス研究所 を設立。札幌を拠点に「スポーツでメシを食らう」をテーマにスポーツを活用した地域活性化プランの構築、スポーツ政策の提案、スポーツ教育、スポーツ観光、大学講師、講演、スポーツ施設の企画設計と幅広い活動をしている。現職は、一般社団法人ニセコスポーツツーリズム 理事長・一般社団法人北海道総合スポーツクラブ 地域戦略アドバイザー・北海道スポーツツーリズム連絡協議会事務局・SMS 札幌スポーツマネジメント メンバー、他。	
	参加団体の活動紹介など ※連絡協議会メンバー+道内連携のための道内担当者などにご参加いただけます。 ※本プログラムは、上記の方に追加、そのほかの方も聴講可能です。	

第5回

スポーツツーリズム・コンベンション

in 札幌



日時 **2017年3月9日(木)~10日(金)**

場所 **ホテルポールスター札幌**
 ポールスターホール、コンチェルト、メヌエット
 (札幌市中央区北4条西6丁目)

主催：一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構(JSTA) / さっぽろグローバルスポーツコミッション
 後援：観光庁 スポーツ庁



ごあいさつ

札幌市長
秋元 克広



一般社団法人
日本スポーツツーリズム推進機構
(JSTA)
会長 原田 宗彦



このたびは、全国各地より、まだ雪が多く残る北海道・札幌にお越しいただき誠にありがとうございます。また、「スポーツツーリズム・コンベンション in 札幌」にご参加いただき感謝申し上げます。

第5回を迎えた一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構開催「スポーツツーリズム・コンベンション」を、ここ札幌の地で盛大に開催できますこと、大変うれしく思います。

札幌市では、2月19日から26日の期間で、2017冬季アジア札幌大会を開催いたしました。冬季アジア大会として過去最大規模の大会となり、32の国と地域から選手団・NOC役員併せて約2,000人に参加いただき、期間中、市内が国際色豊かな光景に包まれました。

アジア・オリンピック評議会が目的とした、「アジア地域での冬季スポーツの普及と発展」は、着実に成果が上がっており、2018平昌、2022北京と続くオリンピック・パラリンピックの効果も併せ、アジア圏でのウインタースポーツ人口は、ますます拡大していくものと大会を通じて実感したところです。

引き続き、この大規模国際大会開催の経験を生かし、開催地となっている2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック（サッカー）の大会の成功に向けてより一層邁進してまいります。

本コンベンションの共催である「さっぽろグローバルスポーツコミッション」は、JSTAの原田会長にアドバイザーとしてご就任いただいております。札幌・北海道の強みであるウインタースポーツを中心に、国際大会や海外チームの合宿誘致、スポーツツーリズムの振興に努めております。

今回ご参加の皆様も地域の特徴を活かし、様々な形でスポーツツーリズムを推進していることと存じますが、全国の皆様と一緒に会える貴重な機会ですので、十分に情報交換させていただきながら、オールジャパンで世界を呼び込んでいければと思います。

結びに、本コンベンションが、スポーツツーリズムの潮流を加速させ、地域創生に寄与することを祈念し、歓迎の挨拶とさせていただきます。

平素は、スポーツツーリズム発展に向けた取り組みにご尽力いただくとともに、(一社)日本スポーツツーリズム推進機構(JSTA)の活動にご理解・ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。JSTAも活動5年を迎え、ますます自治体・法人などの仲間も増え、スポーツツーリズムへの期待を感じているところです。

昨年2016年は、ブラジル・リオデジャネイロでのオリンピック・パラリンピックが開催され、日本人選手の華々しい活躍に日本中が盛り上がり、スポーツの持つ素晴らしさを実感した一年でした。そして、同時に日本・東京への4年間が始まり、世界中の注目が日本に注がれます。

本コンベンションは、過去東京・大阪・沖縄・岐阜、と開催してきた「スポーツツーリズム・コンベンション」の第5回大会で、昨年設立されたばかりの「さっぽろグローバルスポーツコミッション」のご尽力により開催させていただく運びとなりました。札幌市では、「第8回アジア冬季競技大会(2017/札幌)」が開催され、日本人による大会運営・ホスピタリティのレベルの高さを大いに示し、また、日本人選手の活躍もあり、大変有意義な大会となりました。

これのみならず、北海道では、ニセコをはじめとしたスノーリゾートへのインバウンド急増、大自然を巡るサイクリングなど、北海道ならではのスポーツツーリズム・コンテンツを抱え、ますますの発展が期待できるエリアです。今回のコンベンションの開催をきっかけとして、北海道内市町村へのスポーツツーリズムの飛躍的な発展のきっかけとなることを願ってやみません。また、道外からも多くのスポーツツーリズム関係者にお越しいただけることとなり、会場での交流や出会いが、情報交換やコラボレーションに役立つことを心から期待しております。

3月9日(木)

プログラム

時間	メイン会場 (ポールスターホール)	
13:30 ~ 14:00	開会式	
14:00 ~ 14:30	基調講演① 「スポーツによる地域・経済の活性化」	
		平井 明成 氏 (スポーツ庁スポーツ総括官) 昭和36年生まれ。昭和61年京都大学大学院工学研究科修了。同年文部省入省。平成15年北陸先端科学技術大学院、大学先端科学技術研究調査センター教授。平成20年文部科学省大臣官房文教施設企画部参事官。平成24年東京大学施設部長・副理事、平成26年文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課長。平成28年4月より現職。
14:30 ~ 15:10	基調講演② 「スノーリゾートの世界情勢と北海道におけるスポーツツーリズム発展への提言」	
		戸井田 朋之 氏 (株式会社デザート顧問/順天堂大学客員教授/文化服装学院客員講師) 慶應義塾大学卒業後、(株)デザート入社。以来、商品企画や提携先との契約交渉などデザートブランドのグローバル戦略、事業開発に一貫して関わる。パリ/ロンドン/スイス駐在、夏9回、冬9回のオリンピックを経験し、ネットワークは他に類を見ないほど世界中に広がっている。一方で、過疎地指定された群馬県みなかみ町を見事に復活させた官民協働プロジェクトのリーダーを務める。荒川静香選手、安藤美姫選手、北島康介選手、DA PUMP、モーニング娘。といったスター選手を活用したマーケティングなど、業界を先駆けた手法での企画多数。
15:25 ~ 16:55	パネルディスカッション 「北海道におけるこれからのスポーツツーリズム」	
		野々村 芳和 氏 (株式会社コンサドール(北海道コンサドール札幌)代表取締役社長 CEO) 1972年静岡県清水市生まれ。清水東高校・慶應義塾大学法学部卒。(高校でサッカー部主将)。1995~99年ジェフユナイテッド市原(現・ジェフユナイテッド市原千葉)、2000~01年コンサドール札幌で選手として活躍し、Jリーグ通算154試合8得点、カップ戦30試合1得点。2001年引退後はサッカー番組の解説・司会などを務めたのち、2013年よりコンサドール札幌(2016年シーズンより北海道コンサドール札幌ヘチム名変更)の運営会社である、株式会社北海道フットボールクラブ(2016年1月1日より株式会社コンサドールへ社名変更)代表取締役社長に就任。2015年4月公益社団法人日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)理事。2015年12月設立の電力会社「エゾデン」では取締役副社長を務める。
		佐々木 政文 氏 (北海道新聞社スポーツ戦略室長) 1956年帯広市生まれ。北海道大学卒業後、北京大学留学を経て、北海道新聞社入社。社会部で警察担当、東京政経部で自民党や外務省を担当した後、1998年北京特派員。その後、論説委員、運動部長などを経て、2016年3月から現職。障がい者スポーツの普及、スポーツ関連のフォーラムやイベントの企画立案を軸に活動している。
		コーディネーター：原田 宗彦 (JSTA 会長/早稲田大学スポーツ科学学術院) 1954年大阪府生まれ。京都教育大学教育学部卒業、筑波大学大学院、ペンシルバニア州立大学体育・レクリエーション学部博士課程修了。日本スポーツマネジメント学会会長、社団法人日本フィットネス産業協会理事、JKA公益事業審査委員、一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構会長など。「オリンピックマーケティング 世界No.1イベントのブランド戦略」(スタジオタッククリエイティブ)など著書・訳書多数。
16:55 ~ 18:05	「グローバル視点から見た北海道のスポーツイベントの可能性」	
		Dennis Mills 氏 (MEI (Major Events International) CEO) メジャー・イベント・インターナショナル (MEI) の創設者兼最高経営責任者。英軍にて指揮統制および警備防衛を統括した大佐の階級で引退。タレス社にて、メジャースポーツイベントのセキュリティシステム・ビジネスに関わり、その後、Beijing2008でトレーニングを積み、IOCのワールドワイドパートナーであるAtos OriginのアカウンドディレクターとしてLONDON2012に関わった。その後、MEIにおいて、グローバルに事業拡大。多くの国や業界で幅広いネットワークを持ち、英国外で11年間暮らし、それらの経験から国際的に良好なつながりを持ち、定期的にメディア記事や会議での講演を行っている。
18:30 ~	懇親会 (セレナード)	